

# インフル対策に乳酸菌

## ヨーグルトやドリンク

### 県内 売り切れ続出

富山県内でインフルエンザ警報が発令される中、県内のスーパーで「乳酸菌」1073R-1（通称・R-1乳酸菌）の入ったヨーグルトの品薄状態が続いている。佐賀県で実施された調査で、この商品を購入した児童の感染率が低下したとする報道があったため、幼い子どもを持つ女性らが売り場に殺到している形だ。

全国的に品薄になった「ヨーグルト」は、開店しているのは、明治（東京都）が販売した乳酸菌を使った「R-1ヨーグルト」。佐賀県有田町で行われた調査で、同商品のドリンクタイプを継続的に摂取した小中学生のインフルエンザ感染率が周辺地域と比べて低くなった。明治の中部支社北陸市乳支店によると、県内でのR-1ヨーグルトの売り上げは前年同期比2〜3倍で、店舗の規模によって出荷量を調整するなどに対応している。

大阪屋シヨップ（富山市）では、県内26店舗全てで商品を取り扱っているが、1月下旬から1店舗につき10個程度しか入荷しない状態が続いているため、購入を1人1個までと限っている。

大阪屋シヨップ粟島

「ヨーグルト」は、開店後わずか10分で完売。4歳の息子を持つ主婦畑美由紀さん（同市四方新出町39）は「幼稚園でもインフルエンザが流行しており、子どもの予防にと思ったが購入できず残念」と話した。県内で32店舗を展開するアルビス（射水市）でも売り切れが続出している。

富山大学院医学薬学  
研究部（医学）の白木  
公康教授（臨床ウイル  
ス学）は、マウスに乳

ワイド富山

酸菌を飲ませた結果、洗いなどの日常的な予防対策も重要」と呼び掛ける。県内では、1月30日〜2月5日の1定点医療機関当たりのインフルエンザ患者報告数が34・21人となり、国の警報発令の基準となる30人を超えた。



乳酸菌を使ったヨーグルトの品切れ状態が続く店内

—富山市内のスーパー